


広報

ふたば

2015
12月号
災害版No.55



表紙写真：伝統芸能がつなぐふるさとの絆…ふるさとの祭り2015





▲写真前列右より、北崎周子さん、鴻崎太郎さん、伊澤町長、佐々木議長、丹野幸男さん。後列右より、池田秀一さん、平岩邦弘さん、船来丈夫さん、箭内充さん、岡田常雄さん、細沢界さん、志賀公夫さん、橋本仁さん。

平成27年度双葉町表彰式

功労表彰

11月3日、町政の進展に多大な貢献をされた方々を称えるため、平成27年度双葉町表彰式がいわき事務所で開催されました。式では、伊澤史朗町長の式辞に続いて、功労表彰として2人の方々に表彰状と徽章が、12人の方々に永年勤続表彰が、9社と1団体に感謝状が贈られました。続いて、佐々木清一町議会議員、坂本栄司県議会議員が祝辞を述べられました。また、受賞者を代表して鴻崎太郎さんが謝辞を述べられました。

表彰された方々は次のとおりです。

永年勤続表彰

◆永年にわたり双葉町選挙管理委員として民主政治の確立と地方自治の振興発展に尽くされた功績顕著

鴻崎 太郎様（鴻草）
福島市居住

選挙管理委員
12年
選挙管理委員長
3年9月

◆永年にわたり双葉町選挙管理委員として民主政治の確立と地方自治の振興発展に尽くされた功績顕著

丹野 幸男様（郡山）
南相馬市居住

選挙管理委員
8年
選挙管理委員長
4年
職務代理者
3年9月
選挙管理委員

◆多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

宮本 清様（新山）
須賀川市居住

消防団員
25年

◆多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

鈴木 慶一様（山田）
いわき市居住

消防団員
25年

◆多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

菊地 一夫様（山田）
石川県金沢市居住

消防団員
25年

—永年の功績をたたえて—

永年勤続表彰

◆ 多年にわたり双葉町社会教育委員として社会教育の推進に寄与

岡田 常雄様 (三字)

社会教育委員
いわき市居住
20年

◆ 多年にわたり双葉町スポーツ推進委員として社会体育の推進に寄与

箭内 充様 (山田)

スポーツ推進員
いわき市居住
20年

◆ 多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

舶来 丈夫様 (山田)

職員
いわき事務所
30年

◆ 多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

橋本 仁様 (長塚二)

職員
いわき事務所
30年

◆ 多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

平岩 邦弘様 (両竹)

職員
いわき事務所
30年

◆ 多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

北崎 周子様 (羽鳥)

職員
埼玉支所
30年

◆ 多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

池田 秀一様 (下条)

職員
いわき事務所
30年

◆ 多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

細澤 界様 (郡山)

職員
いわき事務所
30年

◆ 多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

志賀 公夫様 (三字)

職員
いわき事務所
30年



▲受賞者を代表して謝辞を述べられる鴻崎太郎さん





▲写真前列、江戸川ロータリークラブ様、伊澤町長、佐々木議長
後列右より、マツダ株式会社様、埼玉日産自動車株式会社様、アサヒグループホールディングス株式会社様、日産自動車株式会社様、株式会社明光商会様、トヨタ車体労働組合様

感謝状

◆ 双葉町財政調整基金に多額の金員を寄附

アサヒグループホールディングス株式会社
代表取締役社長兼CEO

泉谷 直木様

東京都

◆ 双葉町立幼稚園・小中学校に暖房器具・複写機を寄附

東京江戸川ロータリークラブ

会長 須賀 雅文様

東京都

◆ 文書裁断機を寄附

株式会社明光商会
代表取締役社長

青木 正太様

東京都

◆ 車両を寄附

日産自動車株式会社CEO

カルロス・ゴーン様

神奈川県

◆ 車両を寄附

トヨタ車体労働組合様

愛知県

◆ 車両を寄附

マツダ株式会社
代表取締役社長兼CEO

会長 小飼 雅道様

広島県

◆ 車両を寄附

埼玉日産自動車株式会社

代表者 森 弘昭様

埼玉県

◆ 車両を寄附

福島ダイハツ販売株式会社

代表者 青木 信幸様

福島市

◆ 車両を寄附

株式会社ガリバーインターナショナル
代表取締役会長

羽鳥 兼市様

東京都

◆ 車両を寄附

有限会社関根モータース
代表取締役

関根 仲緒様

埼玉県

町民の皆さまへ

10月14日より県内外の14カ所で町政懇談会を開催しました。

懇談会の冒頭、私から町長就任後の状況説明と町内の復興の取組として、復興IC、復興祈念公園、除染、一時帰宅時の休憩施設、県内の復興公営住宅等の復旧・復興の取り組みや現状について説明をいたしました。さらに、担当課長から「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」の概要版に基づく説明と、11月より双葉町内の家庭内ゴミの片づけが出来るようになったことについての対応方法等を説明しました。

震災後4年8カ月経過しましたが、いまだ双葉町からの避難生活が継続しており、出席された町民の方々からは、避難先でのご苦労や町内でのイノシシ被害、地震や風雨の影響による家屋被害、共同墓地等多岐にわたる、意見、要望、質問等をいただき、可能な限り丁寧な回答をしたところであります。

10月7日に町立南北小学校の授業の公開が行われ、学校再開後2年目を迎え、少人数教育の現状やICT機器を活用した教育現場の見学等を行いました。

さらに10月31日には梅檀祭が行われ、子どもたちの日頃の学習成果を堂々と披露する姿に大変感激いたしました。現在、幼稚園児、小学生、中学生の22名で授業

を行っております。来年度の町立学校の入学希望の意向調査を実施し、在籍人数が増加する見込みとなっております。将来の町の担い手として明るい希望とっております。

10月31日に細谷の渋谷ミツイ様の百歳賀寿の贈呈を行いました。震災・原発事故により避難を余儀なくされ多くの町民の方々が全国で避難生活している中で、明るい話題となりました。

安倍内閣の第三次内閣改造により、10月13日に丸川珠代環境大臣が来庁、28日には放射性汚染土壌の保管場の現地視察、10月17日に林幹夫経済産業大臣の町内視察、10月26日に若松謙維復興副大臣が、11月9日には高木毅復興大臣が来庁されました。各大臣、副大臣に対しまして、町の復旧・復興について更なる加速化と支援等の前進に協力の要望を行いました。特に丸川環境大臣に対しましては、過日国道6号で発生した環境省発注工事に係るトラックの横転事故に鑑み、今後の輸送の安全確保や中間貯蔵施設予定地の地権者の方々への丁寧な説明と対応を強く要望しました。

今年も残すところあとわずかとなり、寒さの厳しい季節になります。町民の皆さまにおかれましては、ご壮健にて新年をお迎えになれますよう心よりご祈念申し上げます。

双葉町長 伊澤 史朗

高木復興大臣へ要望



11月9日、高木毅復興大臣、長島忠美副大臣が就任のあいさつのためいわき事務所に来庁され、復興の課題等について伊澤史朗町長、佐々木清一町議会議長と意見交換を行いました。

伊澤史朗町長から町の復興に必要な支援策をまとめた要望書を高木大臣に手渡し、実現に向けた特段の措置について強く要望しました。

また意見交換では、町の現状と「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」の概要を説明し、実現のための各種支援を求めました。

一 双葉町の復興に向けた重点要望一

1 町内復興拠点の早期整備に向けた特段の措置

- ① 福島再生加速化交付金の事業採択に当たっては、双葉町が中間貯蔵施設の受け入れをはじめ、町の復興に極めて厳しい条件におかれていることに鑑み、特段の配慮を行うこと。
- ② 中野地区の「復興産業拠点」に、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想を具体化する拠点として、復興のトリガーとなるプロジェクトを国主導により構想し、研究機関・事業所の積極的な立地を図ること。

2 双葉インターチェンジ及びアクセス道路等の早期整備への特段の措置

双葉インターチェンジの整備とともに、インターチェンジと町内復興拠点を結ぶアクセス道路の早期整備、並びに町内道路ネットワークの整備促進を図ること。あわせてJR常磐線についても早期の全線開通を図ること。

3 復興祈念公園等の整備への特段の措置

復興祈念公園及びアーカイブ拠点施設に整備に当たり、国としても財政の措置をはじめ、特段の支援を講じること。

福島県知事から感謝状

第69回福島県社会福祉大会が10月15日、会津若松市で開かれ、関係者1,200人が参加しました。この大会は、地域福祉のさらなる充実に向けた啓発を図る機会として毎年開かれているもので、席上、社会福祉活動に貢献のあった方々に表彰状や感謝状が贈られました。双葉町では多年にわたり民生委員児童委員として社会福祉の向上に寄与されたご功績により、大橋正子さん（細谷）、木幡ミネ子さん（長塚一）に内堀雅雄知事から感謝状が贈られました。

10月20日、お二人がいわき事務所を訪れ、伊澤史朗町長に受賞の報告を行いました。

伊澤町長はお二人の長年のご尽力に対して感謝し、「今後も双葉町のために活躍いただきますようにお願いします」と述べました。



▲写真左：木幡ミネ子さん、写真右：大橋正子さん

― 賀寿の祝い ― 満百歳おめでとーございます



老祝い金が贈られました。

10月31日、渋谷ミツイさん（細谷）がめでたく満百歳の誕生日を迎えられ、いわき市内の住宅型老人ホーム「ひなた」において賀寿式が行われました。

金色の帽子とちゃんちゃんこを身に付けたミツイさんは、とてもお元気そうで、お祝いに駆け付けた細谷地区の方々や親戚の方と笑顔で話していました。

式では、初めに福島県知事からの賀寿と記念品の木杯が遠藤泰弘相双保健福祉事務所健康福祉部長から贈られました。続いて双葉町からの賀寿と敬老祝いが伊澤史朗町長から手渡されました。

次に双葉町老人クラブ連合会会長の玉野憲一さんから賀寿と祝い品が贈られました。続いて、高野一美双葉町遺族会長、大橋庸一細谷行政区長から賀寿や敬

続いて佐々木清一町議会議長がお祝いの言葉を述べられ、賀寿を祝いました。

玄孫の小西遥真くんが花束を贈呈し、三男の渋谷信一さんがお礼と感謝の言葉を述べました。

ミツイさんは、歌うことが大好きなほか、好き嫌いなくなんでもおいしく食べられ、元気な日々を過ごしているとのことでした。



岡村隆夫さん(新山)が

文部科学大臣表彰

双葉町教育委員として多年にわたる町教育行政の発展に貢献した功績が顕著と認められ、岡村隆夫さんが10月6日に文部科学省講堂において開催された平成27年度地方教育行政功労者表彰式で文部科学大臣表彰を受けられました。

11月11日、いわき事務所を訪れ、伊澤史朗町長、半谷淳教育長に受賞の報告を行いました。

岡村さんは、昭和59年から現在に

至るまで双葉町教育委員として、また平成18年からは双葉町教育委員長として町の教育行政の推進にご尽力いただいています。

また、東日本大震災以降は、非常事態の中で児童生徒の教育環境の充実について避難先市町村の教育委員会へ働きかけを行い、また再開された町立幼・小・中学校の建設などにも大きな手腕を発揮されました。

伊澤町長は、「長年にわたる教育行政に対してご尽力いただき感謝申し上げます。双葉町の教育の歴史を知る上でも岡村さんの存在は大変貴重なものです。町としてこの度の受賞を大変名誉に思います」とお祝いの言葉を贈りました。

岡村さんは、「大変光栄に思います。教育委員として自分自身も大変勉強させていただきました。今後も双葉町の未来を担う子どもたちのために教育行政の推進と教育の振興のためにできる限りのことをしていきたい」と話されました。

さらに、長年の教育委員としての活動について振り返りながら、これからの双葉町の教育の在り方について懇談されました。



双葉町英語指導助手

アンソニー・バラードさん
フィリップ・ジェリーマンさんが

第42回MAF展で内閣総理大臣賞を受賞

一般財団法人 映像と芸術の振興財団主催の第42回MAF展(公募美術展)において内閣総理大臣賞に、英語指導助手のアンソニー・バラードさんとフィリップ・ジェリーマンさんが出品した東日本大震災と原発事故を経験して映し撮ってきた町民や町の様子の心象作品が選ばれました。

展覧会は10月30日から11月6日まで東京都美術館で開催されました。出品した作品(写真)は55点で「アートと災害」というテーマでいずれも震災後の双葉町をカメラで撮った「真実の双葉町」と題した作品です。11月11日、アンソニー・バラードさんがいわき事務所を訪れ、伊澤史朗町長と半谷淳教育長に受賞の報告を行いました。

作品展に出品したきっかけは、NHKの報道番組「明日へー支えあおう」(証言記録 東日本大震災 福島県双葉町×原発事故 翻弄された外国人)の映像を見た人から作品展へ出したらどうかとの助言があったからとのことです。

アンソニーさんは、第二のふるさとである双葉町に関する写真をこれからも撮り続け、町の現状を訴え続けていきたいと話されました。



▲フィリップ・ジェリーマンさん

双葉町住民意向調査にご協力ください

双葉町は、現時点で皆さんが今後の生活設計などについてどのような考えをお持ちかを把握するため、今年度も復興庁、福島県との共同で住民意向調査を実施します。

皆さんには、避難生活で心身ともに疲れのことは存じますが、今後の施策を進めるための貴重な基礎資料となりますので、ご協力をお願いします。

実施概要

- 調査実施主体 復興庁、福島県、双葉町
- 調査の方法 全世帯に調査票を送付し、記名方式にて実施します。
- 調査の対象者 全世帯の代表者の方
※分散して避難されている場合は、それぞれの避難先へお送りしています。
※送付された代表者ごとにご回答をお願いします。
- 調査実施期間 12月14日(月)～12月28日(月)
- 調査票提出締切 12月28日(月)まで
- ※同封の返信用封筒へ調査票を封入し、郵便ポストにご投函ください
- 【問い合わせ先】 復興推進課 ☎0246-84-5203 (直通)

昭和46年度 双葉中学校卒業生の皆さんへ 還暦祝会開催のお知らせ

昭和31年4月2日から昭和32年4月1日に生まれた方で、昭和46年度双葉中学校を卒業された方、還暦祝会及び厄払いを開催いたします。

避難等で連絡を取ることが困難な状況なので、この記事を見た方、及びご家族から連絡を取っていただき、代表幹事までご連絡をお願いします。

また、連絡の取れる同級生には、お互いに声をかけ合っていただき一人でも多くの参加をお待ちしています。



- 日 時… 平成28年1月16日(土)
- 場 所… 元禄彩雅宿 古滝屋
いわき市常磐湯本町三函208
☎0246-43-2191
- 会 費… 参加者に別途お知らせします。

【連絡先】 昭和46年度双葉中学校卒業生有志一同 代表 岩本 弘
☎090-8250-9390

第67回人権週間 12月4日(金)～10日(木)

福島地方法務局及び福島県人権擁護委員連合会では、12月4日から10日までを「第67回人権週間」とし、当該週間を中心に積極的な啓発活動及び相談活動を行います。

また、人権週間に限らず、電話相談を実施しますので、悩み事がありましたら下記のダイヤルにお電話ください。相談は無料で、秘密は厳守します。

- ・みんなの人権110番 ☎0570-003-110
- ・子どもの人権110番 ☎0120-007-110
- ・女性の人権ホットライン ☎0570-070-810

相双地方振興局 県税部課税第一チーム
☎0244-261126

【問い合わせ先】

福島県では、例年、8月に個人事業税の納税通知書をお送りしていましたが、原則として双葉町に住所を有する方への今年度の納税通知書は、所得税の申告期限延長措置終了に伴い、12月11日にお送りする予定です。

納期限は、第一期が平成28年1月4日、第二期が平成28年3月31日となります。

また、複数年分の所得を申告された方には、申告年数分の納税通知書をお送りします。

減免制度など、詳しくは県税部までお問い合わせください。

個人事業税の課税時期の変更

教育長からのメッセージ



鯖江市研修旅行に参加して

10月10日から12日まで二泊三日の日程で、双葉郡内の中高校生9名そして引率教師5名とともに、福井県鯖江市に研修旅行に参加しました。これは、郡内8町村の教育長が中心となり進めている「双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」の計画に基づくものです。昨年の島根県海士町への訪問に続いて第二回目になります。

地域の活性化に取組む先進地区での研修で、学ぶことの多い充実した研修旅行となりました。以下、感想です。

充実した研修プログラム

旅行の楽しみは、よく言われることだが、訪問先の素晴らしい景色や人々との出会い、その土地の食べ物や歴史・文化に触れたときの新鮮な感動であろう。旅の友との会話や交流が盛り上がれば、楽しみは倍加する。研修が面白かったかどうかは、参加者の求めるものにより様々であろうが、「通常すべての研修のプログラムが面白いということはあまりない」というのが大方の思いであろう。今回の研修とは言えば、「プログラムのすべてが面白く、大変印象深かった」というのが自分の正直な感想である。他のメンバーはどうか。研修中の笑顔や驚きの様子、帰りの電車で感想を繰り返し語り合う光景を見るに、自分同様の感想を持ったのではないかな。

鯖江市役所JK課

今回の研修の第一のねらいは、「鯖江市役所JK課（女子高校生課）」の取り組みに触れること、そして双葉郡教育復興ビジョンの取組へのヒントを模索することであった。「ゆるやかな市民の代表として、女子高校生のアイデア・活動を市の活性化に活かす」というのが事前の情報であった。それだけでもかなり興味をそそられる中身ではあったが、実際にJK課を立ち上げる経緯や市民の反応、女子高校生達の独創的且つ意外性のあるアイデアの数々そして意欲的な活動の実態に触れ、JK課をプロデュースした慶応大学大学院政策・メディア研究科特任助教、若新雄純氏（福井県出身）とその提案を採用した鯖江市長、牧野百男氏による市政の活性化のための創造的且つ革新的な取組は、同様に地域の活性化、教育の復興を目指す自分達にとって、正に「眼から鱗」、大変刺激的な実践として強烈に印象づけられた。

市民主役条例を旗印に

JK課と並ぶ鯖江市の改革の旗印が、「市民が主役のまちづくり」の方針の下、「ふるさと学習」、「鯖江ブランド創造」、「地域づくり」を通して全市民の積極的なまちづくりへの参加を促す「市民主役条例」の制定（2010年）である。これにより市民から提案された多くのアイデアを受け入れ、市の事業の多くを市民が担う仕組み作りに着手し成功を収めている。他にも、県内外の学生から意見を募る「まちづくりプランコンテスト」の開催とプランの事業化、鯖江市が世界に誇る眼鏡技術を医療分野に応用する「メディカルバレー」、市のデータを市民に公開し、データを基に市民が関連するアプリの開発に取組み成果を上げている「オープンデータによるITのまちづくり」等々、この研修で知り得た鯖江市の驚きの改革プランは枚挙のいとまがない。

「笑い」と「癒し」の感動

鯖江市研修の成果として、これまでの研修では得られない経験もあった。「笑い」と「癒し」である。JK課の女子高校生がコスプレをしながら市内清掃活動「鯖江ピカピカプラン」に始まり、地元消防署に出動させた「はしご車に乗っての防災キャンペーン」等々は、「大人達の発想・指示で押し付けない、批判しない方法で多くの市民の参加を促し、女性が活躍する社会を創る」という明確な戦略に基づくものであり、「笑えるそして納得できる」ものであった。「癒し」は、質素で落ち着きのあるたたずまいに魅了された古民家での宿泊と民宿の皆さんの十分すぎる程の丁寧なおもてなしである。偶然にも、越前漆器の研修のため民宿に同泊していた3人の外国人との交流や震災後「ひまわりの歌」を創作し子ども達と共に国内外で福島を支援している地元の元小学校教師、岩堀美雪先生との交流も、自分にとっては「学び」以上の「癒し」の感覚を覚えたのである。鯖江市で出会った人は皆優しく、多くの人のために役立つことを、福島の被災者のことを真剣に考えているのだった。思えば、海士町の人達も同様の優しさを持っていた。「目的を持ち、共に自分を変え、地域を変えようと努力する人々はやはり優しくなれるのだ」と自分なりに感じた。

福島からの参加者も皆この研修を通じて、様々な「驚き、笑い、癒し」の経験を通じてそれぞれが感動し、今後の生活、学習、仕事への意欲を、自分のため地域のために共に努力することを研修の感想の中で述べていた。自分同様に、参加した教師、生徒は皆、鯖江の人々の「優しさ」を感じ取ったのではないかな。

第27回双葉町総合美術展

第2回 双葉町民作品展

10月20日、21日の両日、郡山市ビックアイ6階展示室において、双葉町芸術文化団体連絡協議会主催による第28回双葉町総合美術展と第2回双葉町民作品展が開催されました。

会員の皆さんが全国に避難している中、書の部、刻時の部、短歌の部、俳句の部、絵画の部など8つの部門から約80点の素晴らしい作品が、また、町民作品展には自治会や婦人学級の皆さんのさまざまな手芸の力作約90点が出品され、会員の皆さんにより会場内にきれいに展示されました。

開会式では横山久勝会長が「震災後4回目の開催となりますが、さまざまな環境の中で会員の皆さんが研鑽を重ね、1つ1つにそれぞれの思いを込めた作品です。これからも与えられた環境の中で精一杯楽しく制作し、このような機会に皆さんに鑑賞していただき、また来年の励みにしていただきたい」とあいさつされました。

続いて伊澤史朗町長、佐々木清一町議会議長が祝辞を述べられました。

10月24日、25日には、いわき市勿来体育館の勿来地区総合文化展、双葉町スペースにおいて、町民作品展が開催され、双葉町小中学校児童・生徒の作品とともに約130点の作品が展示されました。

2会場とも来場者が入れ替わり立ち代わり訪れ、作品を鑑賞したり、作品を通して話が盛り上がり、交流がさらに深まったようでした。



▲開会式



▶ 双中一年
さんの作品
野村遙花



みんなが主役! 協力し、感動おこせ

双葉町立幼稚園
小・中学校

梅檀祭



10月31日、町立学校体育館において「みんなが主役! 協力し、感動おこせ 梅檀祭」をスローガンに幼稚園、小学校、中学校の合同学習発表会が開催されました。

会場の後方には、これまで授業の中で学んだことの掲示物や美術作品、壁新聞など多岐にわたる学習の成果が感じられる作品が飾られ、保護者や来場した方々が子どもたちの健やかな成長を確かめるように目を細めながら見入っていました。

オープニングは、昨年に続いて小・中学生が、標葉さんだん太鼓保存会の指導を受けて練習してきた「秋茜」を演奏し、保存会の方々が見守る中、息の合った力強い和太鼓



の音色を会場内に響かせました。

中学生は「双葉の成長く過去を乗り越えて」と題して中学生の心の成長をテーマとし、総合学習の授業で学んだことなどを盛り込んだ創作劇を全員で表現しました。また、アイドルグループ嵐の「ふるさと」や「双葉町民の歌」を会場いっぱい響くような心を込めて歌いました。

小学生は、英語を使って「金のおの」の劇を発表。児童たちは日頃の英語活動の成果を発揮し、大きな声で堂々と発表しました。また「青い鳥」の劇を行い一生懸命な演技に大きな拍手が贈られました。

幼稚園児は、手作りのピンクと黄色のドレスに身を包ん



だかわいらしい姿で「GO! プリンセスブリキユア」のダンスを元氣よく披露しました。

休憩をはさんで、日本赤十字社支援事業である芸術鑑賞として「みちのくボンガーズ 母心」のお笑いステージが行われ、楽しいトークに加え、子どもたちもステージに参加する場面もあり、楽しいお笑いの世界に引き込まれました。

エンディングセレモニーでは、子どもたちの日々の学校生活の様子がスクリーンに映し出される中、全校生が「ピリブ」を合唱し、梅檀祭での発表に向けて努力を重ねてきた子どもたちの想いがつながりまりました。

来場した方々の心に残る素晴らしい発表会でした。



▲「みちのくボンガーズ 母心」のお笑いライブ



▲オープニングセレモニー

ふるさとの祭り2015

～地域をつなぐ伝統芸能～

10月31日、11月1日ふるさとの祭り2015が南相馬ジャズモールで開催されました。「地域の宝」を守っていきこうと、ふるさとの祭り実行委員会の主催で行われ、福島県伝統芸能20団体と山形県の花笠踊りが出演しました。

11月1日のステージでは、秋晴れの下、双葉町から昨年に引き続き会員の皆さんが避難先から集まり、新山神楽保存会と前沢婦人会芸能保存会が、勇壮な神楽や華やかな女宝財踊りを披露しました。両日とも大勢の来場者で賑わい、会場からは惜しめない拍手が送られました。



新山の神楽

新山神楽保存会

新山の神楽は、150年の歴史があると言われています。双葉町の神楽の中でも唯一という、黒い獅子頭で、太鼓と笛のお囃子に合わせて、また途中には歌も入れながら舞います。初めは幣束を持って舞い、次には鈴と剣をもって舞い、最後には3人の男性が入って荒々しく「暴れ獅子」を舞います。刀を持って舞う神楽は大変珍しいということです。

ステージが終わった後、無病息災の意味を込め、獅子に頭を噛んでもらう体験コーナーもありました。



▲ブルーの法被の後ろには黒と赤の2匹の鯉がデザインされています。



◀前列右より高村和行、新野泰弘、田村岳広、後列右より山根光保子、相楽比呂紀、白玉直裕、根本英樹（敬称略）

私がつなぐ、ふくしまの絆

前沢女宝財踊り

前沢女宝財踊り芸能保存会

前沢婦人会芸能保存会（半谷八重子会長）による宝財踊りは、室町時代から続いている芸能で、県内で唯一の女性だけで踊る踊りです。

今から670年前、南北朝時代の霊山落城の際に、12人の主従が旅芸人に変装して踊りながら落ち延びた話が起源とされ、旅芸人の姿に扮した会員の皆さんは、県内外に避難して練習ができない状況の中、軽快なお囃子の笛に合せて、堂々と踊りを披露しました。



伝統芸能の 継承を…

伝統芸能や祭りは、災害や社会経済の変動などにより消滅していく恐れがあります。

一方、地域に古くから伝わる芸能は、人々の心に直接働きかけ、人々との絆を強め、生きる力を呼び起こすと言われています。

これから双葉町が復興に向けて前進していくためにも郷土芸能を決して絶やさずに後世に継承していきたいものです。



▲前列右より、半谷八重子、加賀由美子、後列右より田中晴美、加村茂子、佐々木佐智子、山本眞理子、山根光保子、岡田利江子、谷津田敬子、渡邊貴美子、岩本稔恵、相樂比呂紀（敬称略）

浜野行政区総会・交流会



10月17日、18日の一泊2日の日程でいわき市小名浜オーシャンホテル&ゴルフクラブにおいて、震災後5回目となる総会・交流会が開催されました。今回が初めての参加となる方もいて、久しぶりの再会を喜び合いました。

総会は、菅本洋区長のあいさつの後、役場から半澤浩司副町長、武内裕美総括参事、産業建設課職員が出席し、双葉町の今後の方向性などを説明していただきました。

福島県からは、相双建設事務所から各担当者などが出席し、浜野地区の海岸、川岸工事、防災林の今後のスケジュールなど復興に向けた取り組みの説明があり、全般にわたっての質疑応答が行われましたが、住民の納得できる説明ではありませんでした。総会に入り、今回は役員の改選が行われましたが、区長に菅本洋さん、副区長兼会計には荒木茂さんが再任されました。委員には、中井正三さん、菅本武恒さん、吉田正志さんが選任されました。任期は2年間となります。今回の参加者は22人と年ごとに参加人数が少なくなりましたが、浜野地区のつながりを失くさないようにと誓い合いました。

交流会は高玉正祐さんの乾杯の音頭で始まり、近況報告や住宅の再建などさまざまな問題を抱えている状況などを話し、お互いに情報交換を行いました。二次会はカラオケで盛り上がり楽しく過ごすことができました。

翌日は、また会う日を楽しみに元気でいることを誓い合って帰路に着きました。

※浜野行政区事務局より記事・写真のご提供をいただきました。

相馬税務署からのお知らせ

1 平成27年分の所得税等の確定申告書作成会場について

平成27年分の所得税（及び復興特別所得税）、消費税及び贈与税の確定申告期における申告書作成会場は、次のとおり開設する予定です。

➤ 申告書作成会場

『相馬市振興ビル』相馬市中村字塚ノ町 65-16

➤ 開設期間等

平成28年2月1日（月）～3月15日（火）

午前9:00～午後4:00

- ※1 申告書作成会場の開設期間前と開設期間中、相馬税務署内には会場を開設いたしません。
- ※2 開設期間中は申告相談のご予約を受け付けいたしません。
- ※3 南相馬市内に税務署の申告書作成会場は開設いたしません。
- ※4 土日・祝日は、作成会場を開設いたしません。

2 確定申告書の便利な作成方法について

所得税、消費税及び贈与税の確定申告書の作成に当たっては、国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」が便利です。特に、収入が給与又は公的年金のみの方については、入力方法がより簡単・わかりやすくなります。

作成コーナーで作成した申告書を紙に印刷し、税務署へ郵送等により提出することができます。

来署される納税者の皆さまの、会場混雑による長時間待ち等によるご負担を軽減できますので、是非とも国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」をご利用ください。

※ 平成27年分については、平成28年1月に掲載予定です。

国税庁ホームページ⇒ <http://www.nta.go.jp>

※朝川洋一・渋川行政区長より記事、写真のご提供をいただきました。



前向きに生きよう！ 渋川行政区総会・交流会

10月18日、渋川地区の総会・交流会が白河市郭内第一仮設住宅集会場において開催されました。

県内外の避難先から28戸のうち21人が参加しました。特に女性の方が8人参加し、「みんなに会いたくて200キロ先から車を走らせてきたんだよ」と運転の疲れもどこかへうれしさのあまり抱き合っって大喜びしていました。

総会に先立ち、亡くなられた方々のご冥福を祈り黙とうをささげました。

総会では、朝川洋一区長から「平成25年頃には、除染をして線量が低ければ避難解除もあるというような話もありましたが、今となっては解除の話は一言も出てこない。ふるさとへ帰れる日がいつになるのか予想もつかず、思い出の詰まった山や川、家を簡単に捨てるわけにはいかない。解除になる日を祈りつつ、絆をしっかりと持って前向きにがんばろう」とのあいさつがありました。続いて会計報告が行われ、特に東京電力の損害賠償について説明がありました。その他、渋川の薬師寺にある薬師立像について、薬師像本体がなく困っていました。現在、寺沢の中禅寺に安置してあるとの報告がありました。

役員改選では、区長に朝川洋一さん、副区長に西尾富雄さん、その他常設委員4人が決まりました。

交流会では、近況などの話で盛り上がり、またこの次は一泊しながら総会、交流会をやるという話が出て、全員一致で決まりました。

「また会いましょう」と笑顔で別れ、それぞれ帰路につきました。

双葉農業普及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内5カ所で、避難されている農家の皆さんの相談窓口を設置しております。

窓口では、相談者の現在の状況を聞き取らせていただきながら、皆さんが必要な情報、(農産物・土壌モニタリング結果、原子力災害に対応した農業技術情報、資金・事業の紹介など)をわかりやすくご説明いたしますので、お気軽にお越しください。

12月の日程は右記のとおりです。

※町村問わずに最寄りの窓口にお越しください。

※右記以降の日程は随時お知らせいたします。

双葉農業普及所ブログ「ふたばの農業通信」に掲載しておりますので、ご利用ください。パソコン、携帯電話からご覧になれます(携帯電話のポケット料金にはご注意ください)

※時間：午前10時～正午

12月4日(金)	葛尾村役場三春出張所 (三春貝山多目的運動公園管理棟)
12月10日(木)	双葉町役場いわき事務所 (いわき市東田町地内)
12月11日(金)	浪江町役場二本松事務所 (二本松市平石高田第二工業団地)
12月17日(木)	富田町仮設住宅 (郡山市富田町若宮前応急仮設住宅集会所)
12月18日(金)	大熊町役場会津若松出張所 産業建設課内

【問い合わせ先】相双農林事務所双葉農業普及所

☎ 0240-23-6474

FAX 0240-27-4747

川内普及所(川内村役場内)

☎ 0240-38-3434

第1回双葉町民トレッキング



再会に歓喜 風景に感動

11月1日、双葉ふれあいクラブの企画により、双葉町民トレッキングが開催され、県内外から38人が参加しました。

栗田要理事長のあいさつの後、裏磐梯五色沼を出発し、柳沼で昼食をとり、小野川不動滝を目指して約6キロのコースを散策しました。参加した皆さんは、再びトレッキン

グに参加できたことを喜び合い、楽しい会話に笑顔があふれました。休憩をはさみながら歩く道々では、晩秋を彩る美しい紅葉を見ながら足を止めて写真を撮ったり、また、初冠雪の吾妻山の素晴らしい風景に感動したり、秋の一日を楽しみました。冷え込む季節の中でも心も身体も温まり、またの開催を望む声が多く聞かれました。

第27回ふくしま駅伝

・総合…45位 ・町の部…25位

応援を力にかえて力走

11月15日、第27回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が開催され、白河市の総合運動公園をスタートに福島県庁までの95.1kmを16人の選手がタスキをつなぎました。

双葉町チームは、避難生活により選手の皆さんが集まって練習ができない中で、今年は7月24日から26日に北塩原村での合宿を行い、11月8日には試走を実施して気持ちを高め、心をひとつにして大会に臨み、総合45位、町の部25位と健闘しました。

沿道やタブレット端末等を通して町民の皆さんの応援を背に、選手の皆さんが力走する感動的なシーンがあちらこちらで見られました。



行政区長会で原発視察

10月9日、震災以降4回目となる行政区長会の福島第一原子力発電所（特定原子力施設）の視察が行われました。

Jヴィレッジで廃炉作業の説明を受けた後、専用バスで移動し、汚染水タンクなど構内の主要箇所をバスの車窓から視察しました。

区長の皆さんからは、「1年前より様変わりしていた」「作業エリアが整然としていた」という感想が出された一方で、「目に見えて進んでいるとは思えない」という感想が出されるなど、視察を通じて、更なる安全・着実な廃炉作業と作業員への感謝の気持ちを強くしました。



宝くじの社会貢献広報事業のお知らせ



標葉せんだん太鼓保存会（会長 横山久勝 さん）では、宝くじの助成金（コミュニティ助成事業）を活用して、和太鼓の修繕や新規購入を行いました。整備した和太鼓は、今後、各種イベントで活用される予定です。（写真は、標葉せんだん太鼓保存会の皆さんが町立小・中学校の梅檀祭にむけて児童、生徒に指導を行っているところです）

環境省

福島環境再生事務所からのお知らせ 中間貯蔵施設について

◇試験輸送について（11月20日現在） （パイロット輸送）

○実施中

- 川俣町（11月2日～12月中旬まで（予定））
- 三春町（11月2日～12月中旬まで（予定））
- 南相馬市（11月11日～12月下旬まで（予定））
- 飯舘村（11月11日～12月下旬まで（予定））
- 伊達市（11月17日～12月下旬まで（予定））

○今後の予定

- 福島市（12月頃から1カ月程度（予定））
- 相馬市（12月頃から1カ月程度（予定））
- 新地町（12月頃から1カ月程度（予定））

◇保管場及び陳場下交差点 の放射線監視

- 除染土壌等の搬入による空間線量の増加はないことが確認されています。今後もしっかりと安全対策及び放射線の監視を行ってまいります。

- 中間貯蔵施設及び周辺モニタリングの結果については、以下のJESCO（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）のHPで公表しております。

（URL）

<http://www.jesconet.co.jp/interim/operation/monitoring.html>



【問い合わせ先】福島環境再生事務所
中間貯蔵等施設整備事務所 調査設計課
☎024-563-1298

—健康生活のススメ—

Smart Life Project (スマート・ライフ・プロジェクト)

で健康寿命をのばしましょう!



これは国民全体が人生の最後まで元気に健康で楽しく毎日が送れるようにと厚生労働省が実施している国民運動です。「運動」「食生活」「禁煙」の3分野を中心に具体的に行動していくことを呼び掛けています。

ここに2014年度からは、健診・検診の受診が新たなテーマとして加わりました。

➡ 適度な運動

「毎日プラス10分の運動」

例えば、運動時の早歩き。
例えば掃除や庭いじり。
日常での体の動きを増やすだけで健康生活に変わります。



➡ 適切な食生活

「毎日プラス1皿の野菜」

いつもの食事にプラス一皿の野菜を。
ちょっと意識しておいしく野菜を摂る事で、理想的な食生活に近づきます。



➡ 禁煙

「たばこの煙をなくす」

たばこを吸うことは健康を損なうだけでなく、肌の美しさや若々しさを失うことにも繋がります。



○平均寿命と健康寿命の関係は？

厚生労働省は、介護を受けたり寝たきりになったりせずに日常生活を送れる期間を「健康寿命」としています。2013年の健康寿命は、男性71.19歳（同年の平均寿命は80.21歳）、女性74.21歳（同86.61歳）と公表しています。

平均寿命と健康寿命の差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味します。

平均寿命が延び、こうした健康寿命との差が大きくなれば大きくなるほど、医療費や介護給付費の多くを消費する期間が増大することになります。疾病予防と健康増進、介護予防などに積極的に取り組むことによって、平均寿命と健康寿命の差は小さくなっていきます。

平均寿命と健康寿命の差



○健診結果を活かして、健康寿命を延ばすにはどうすればいいの？

健診や検診は私たち一人ひとりの毎日の健康状態を守る最大の武器とも言われています。

特定健診などの健診は健康の保持増進として、そのときの健康状態を調べ、問題があったときにどうすればよいか私たちが自身が気づき、改善していくことが目的です。この改善が、健康寿命を延ばすことの第一歩です。

一方、検診は、病気の早期発見・早期治療という目的があります。特にがんは2人に1人が罹る時代です。定期的ながん検診を受けて異変を見逃さないようにしましょう！



○健康の3要素って？

健康でありたい、健康で長生きをしたいは万人の願いですが、健康で長生きするのはなかなか大変です。

健康づくりのためには、栄養・運動・休養が大切で、専門的にこれを「健康の3要素」と呼びますが、「言うは易く行うは難し」で簡単なことではありません。

食べる量はエネルギーの消費量に見合った量がちょうどよいのですが、一般的には調査するのが大変です。そこで、時々体重を量り、あまり変動がなければ食べる量はちょうどよいと判断します。栄養の原則は消費量(必要な量)に見合っただけ、各種の栄養素をそろえて摂取することで、それにはたくさんの種類の食品を組み合わせ、1日3食を適量ずつ食べることが大切です。そして、適度な運動や休息も必要になります。

大切な家族のためにも、大事な自分のためにも今からできることを始めましょう。

参照：http://www.eiyou-chiba.or.jp/commons/shokuji-kou/health_and_diet/eiyou/

生涯学習で 自分みがき・仲間づくり

教育総務課生涯学習係事業開催のお知らせ

12月 生活学級・婦人学級・行事等の日程

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 ◆あいづ生活学級(会津若松市) 生きがい教室 城前仮設集会所 13:00～	4	5
6 ○ひめ萩婦人学級(仙台市) イルミネーション 定禅寺通り 17:00～	7	8	9 ◆そうま・みなみ そうま生活学級(南相馬市) 生きがい教室 原町生涯学習センター(研修室) 10:00～	10	11	12 ○さくら生活学級(つくば市) 手芸(つくば連絡所) 忘年会(別会場)
13	14	15 ○すみれ婦人学級(いわき市南) 3B 体操 9:50～12:30	16	17	18	19
20	21 ○しらゆり婦人学級(南相馬市) フラワーアレンジメント	22	23	24 ○はなみずき婦人学級(加須市) フラワーアレンジメント ◆つくば生活学級(つくば市) 生きがい教室 つくばサイエンスインフォメーションセンター(中会議室) 9:30～	25 ○ひまわり婦人学級(白河市) 生け花リースづくり	26
27	28 ○たんぽぽ学級(郡山市) フラワーアレンジメント せんだん広場 ○梅檀婦人学級(福島市) お正月の生け花	29	30	31		

双葉町社会福祉協議会から

～健康運動教室、社協サロンのお知らせ～

こころとからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。
お気軽にご参加ください。



12月開催予定日

会 場	問い合わせ・申し込み先	開催月日	時 間
健康運動教室 （健康講話、相談、運動機能の維持・向上等）			
福島市 北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小原田 8-1 ☎080-6033-1196（宮田）	12月 3日(木) 12月17日(木) 12月24日(木)	13:30～15:00
白河市 郭内第二仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 ☎080-6290-5930（開発）	12月 8日(火)	10:00～11:30
双葉町コミュニティ施設 せんだん広場	郡山市御前南 2 丁目 73 ☎080-5746-8530（泉田）	12月21日(月)	14:00～15:30
郡山市 富田町若宮前応急仮設住宅集会所	郡山市富田町字若宮前 15 ☎080-5746-8530（泉田）	12月21日(月)	10:00～11:30
南東北総合卸センター 2 階	郡山市喜久田町卸 1 丁目 1-1 ☎080-5746-8530（泉田）	毎週火曜、水曜日 （祝日除く）	13:30～15:00
社協サロン （健康講話、相談、趣味、生きがいづくり交流等） ※社協サロンでは昼食を準備いたしますので、事前に申し込みをお願いします。			
白河市郭内第二仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 申込先☎080-6290-5930（開発）	12月 2日(水)	10:00～14:30
南東北総合卸センター 2 階	郡山市喜久田町卸 1 丁目 1-1 申込先☎080-5746-8530（泉田）	12月18日(金)	10:00～14:30
会津若松老人福祉センター	会津若松市城東町 14-52 申込先☎080-5746-8530（泉田）	12月14日(月)	10:00～14:30
いわき市小名浜公民館 2 階会議室	いわき市小名浜愛宕上 7-2 申込先☎0246-38-7105（渡辺・野村）	12月17日(木)	10:30～14:30

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 郡山事務所 ☎024-973-5291 【担当：泉田】

消防署からのお知らせ

平成27年度全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」



今年も残すところあと1カ月となりました。寒さが厳しくなり、火気を使用する機会が増えます。
今回は**ストーブ**の注意点を紹介します。取り扱いに注意し、今年1年を締めくくりにしましょう！

◇ストーブの使用時には、下記の点に注意
しましょう。

- ・昨シーズン購入した灯油は使用しない。
（古い灯油は不完全燃焼を起こしやすいため）
- ・ストーブの上に洗濯物を干さない。
- ・ヘアスプレーなど引火の可能性があるものは近くに置かない。
- ・外出するときや寝るときは必ず火を消す

【消防署連絡先】

- ・浪江消防署 ☎0240-34-7360
- ・富岡消防署 ☎0240-25-2119

電気ストーブも注意が必要です！

◇電気ストーブは火を使わないから安心
と思いませんか？

- ・ストーブ火災の内、**電気ストーブの火災は約7割**です。
イメージでは石油ストーブの方が火災になりやすいと思われているようです。
- ・電気ストーブでは、**布団や座布団の着火**が多く、その次に衣類や繊維製品となっています。
- ・火災予防上、**可燃物などから1メートル以上の距離**を取ることが推奨されています。



双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられた
お便りの一部をご紹介します

楽しかった交流会

楽しかった第5回の交流会

今日という日は二度と来ない

そんな時の流れのひとときの交流

このマリンブルーの見えるホテルの中で楽しく

さわやかにしてくれた 太平洋の海原

久しぶりだなあ あの時の事（海）は怒ってないよ

でも忘れないよ

そんな気持ちでビールを飲んだ

おいしかった

「私2キロ太ったのよ」「そんな私は10キロ太ったのよ」

と会話は体重の話になって 笑った

「今日はノンアルコールで」、「そういうあなたもノンアルコールか」

今この時間を楽しんでいることを主催者に感謝したい

素敵な料理になごやかな雰囲気

中年層が多いせいか スマホと向き合う人はいない

にぎやかなおしゃべりで 2時間は一瞬だった

まだまだ足りないのだ

一つの固まりとなり、二次会のカラオケへと消えていく

皆さん 元気でまた会おう

ようこママより（浜野）

武内 恒雄（長塚二）

秋深し 雑感

秋深し 雑感
夕餉時 帰り急がす 秋時雨

乱れ雲 茜をかくす 秋の風

羨まし 帰る瀬もある 鮭の群れ

霜月の夜空 月冴えて そぞろ寒む

冬將軍 本番来るかや 霜の月

秋深し 夜半の月冴え 夜露光る

秋分

避難4年目 秋分の日 義父の逝く

古里は 近くて遠き 秋彼岸

秋雨や 帰還せかるる 避難の地

実むらさき 願いは永遠に 避難の地

邯鄲の ひとときわ高く 夜のしじま

柚原 秀康（三字）

人のうごき10月分

敬称略

お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
志賀 晴天	9月27日	寿三・淳子	長塚一

お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
今村 悦子	63	9月27日	羽鳥
脇坂 好美	74	9月28日	長塚一
石田 昌子	84	10月1日	新山
金沢テルヨ	100	10月2日	長塚一
西 千津子	87	10月3日	長塚二
根本トシ子	91	10月13日	渋川
天野 景之	92	10月14日	三字
伊澤 恵子	56	10月14日	三字

<お詫びと訂正>

広報ふたば11月号「ふるさと絆通信」新野ヒメ子さんの記事に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

28ページ前から7行目

（正）自動車整備工場 （誤）自動車修理工場

双葉町民の避難状況

（平成27年11月1日現在）

- ・福島県内に避難されている方 4,050人
- ・福島県外に避難されている方 2,934人

※平成23年3月11日時点の住民基本台帳人口から死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示しています。

連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、死亡の方の名前を掲載しています。

なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご連絡ください。 ☎0246-84-5202

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。

記録として次の世代へ きずな ふるさと絆通信 第31号



ずっと、ふるさと。双葉町。

「ふるさと絆通信」であなたの想いを伝えてみませんか。

ふるさと絆通信では、町民の皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

—想いを伝える—

ふるさと絆通信は、株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が町民の皆さんの避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただいています。

掲載する文章は、インタビューの内容をもとに記者が作成しますので、インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する手間はありません。

【問い合わせ先】 秘書広報課 ☎ 0246-84-5202



はしもと ぜんご
橋本 善吾 さん

ゆみこ
由美子 さん

(郡山)



●避難先●
茨城県日立市



私たち夫婦が結婚してから今年で50年、その節目である金婚を長年住み慣れた場所を離れ、しかも「避難中」という身の上で迎えようとは夢にも思いませんでした。

被災当時、小学1年だった上の孫（次男夫婦の長女）は小学6年生、幼稚園児だった下の孫（次男夫婦の長男）は4年生になりました。上の孫は双葉の様子を少し覚えていたようですが、下の孫には故郷の記憶はありません。現在、次男夫婦と孫たちの計6人で一緒に生活していますが、避難開始当初、一家はバラバラになり、私たち夫婦、次男の妻と孫たちは浪江町や川俣町内の避難所を経て、山形県内に住む親類の世話で同県寒河江市内に約1カ月間ほど身を寄せた後、加須市内の公営住宅で3年弱生活し、昨年からこちらで生活しています。

私の自宅がある地区は全域が中間貯蔵施設の建設予定地になっています。当初、当町、大熊町、楢葉町の3町が候補地とされました。その頃は施設の具体的な内容などは不明でしたが、地質調査など予定地選定に向けた動きが進む中で、施設の完成予想図などの詳細な情報が明らかになり、同施設の建設によって、私の自宅がある地区はほぼ全域でその姿を完全に消しざるを得ないことが分かってきました。同地区にある世帯には、第二次世界大戦前から百年以上の歴史を持つ方が多い一方、私のように高

度成長期の前後に暮らし始めた世帯もあります。私は三春町、妻は郡山市の出身で、東京都内で同じ職場だったことが縁で結婚しました。その後、昭和60年から双葉町に転居し、数年間の貸家暮らしを経て郡山地区に家建て、子育てや住宅ローンを終え、定年退職を機に地区の様々な役職を経験させていただくようになりました。そうした地域活動を通して、ようやく「他から来た人」ではなくなった、この地が故郷になったのかなと思うようになりました。これからは子どもや孫に囲まれた老後をとっていた矢先に原発事故に見舞われ、町を追われることになりました。

避難後、できる限り一時帰宅で立入りしていますが、老後を見据えて平成19年にリフォームしたばかりの自宅は外見こそ変化はありませんが、内部はネズミなどにより荒らされ酷い状態になっています。こうした自宅の被害、人の営みが消え、時間の経過とともに荒れていく故郷、県内外を問わず各地で積み上げられた黒いフレコンバツクの姿に、残念を通り越し悔しさと悲しさが入り混じったような気持ちになります。中間貯蔵施設の建設に心の底から賛成することはできませんが、私たちの犠牲が少しでも震災復興や子どもや孫たちの希望ある将来に繋がってくれるのであれば、施設建設への同意は仕方がないと思っています。



こにし しげこ
小西 成子 さん

(両竹)



●避難先●
埼玉県加須市

昔から九死に一生を得るような話を聞くことは少なくありませんが、まさか、そうした話の当事者になるとは思いませんでした。

被災の約4年前、夫は病気で急に倒れました。長年、JAの理事や地区の役職を引き受けるなど活動的な日々を送っていました。搬送先の病院で命は取り留めたものの、要介護5の状態となり、それ以来、浪江町内の介護施設に入所していました。夫の発病以来、私は近所に住む長女とともに病院や施設に通っていました。震災発生当日、午前中は確定申告のため役場に向かい、その後、妹や娘たちとともに昼食をとった後、夫が入所する施設へ向かうはずでしたが、長女が体調不良を訴え帰宅したために取りやめました。

自宅に一人でいたところ地震に遭いました。大津波警報により避難が呼びかけられている中、自宅の一部が被害を受けたため、どうしていいかわからない状態の中、体調不良で同じ地区の自宅に戻った長女が駆け付けてくれたため無事避難することができました。同日、もし浪江に向かっていたら、長女が出かけていたらと思うとぞっとします。まさに、九死に一生を得ることになりました。

地区ごと津波の被害を受けました。また、近所に住む妹の夫が津波により、一時、行方不明となりましたが、震災発生翌日未明、私たちが避難していたヘルスケアふたばで再会でき安心しました。朝を迎えてから間もなく避

難指示により町を離れましたが、夫がいる介護施設は安全対策が施されているはずと思い無事を信じて町役場と避難行動を共にしました。そしてさいたまスーパーアリーナで夫が新潟県内に移送され無事だと分かりました。

その後、旧騎西高校を経て、現在も加須市内で生活していますが、初めの頃は新潟県長岡市にある夫の入所施設を1カ月おきに往復しました。せめて加須市やいわき市周辺の施設に移せないかと努めました。夫の入所待ち状態になっていることや、更なる移動は夫の体に大きな負担を強いることになるため、震災前のように毎日行けず申し訳ないとは思いましたが、その施設でお世話になることにしました。

避難後約3年間、夫は安定した日々を送っていました。昨年6月に亡くなりました。当時、研修中だった孫の帰宅も何とか間に合い、その到着を待っていたかのように、身内全員が揃った中、眠るように最期を迎えました。夫は旧国鉄・JR職員で常磐線沿線での勤務が長かったため、知人友人が多く故郷の近くでと思い、いわき市内で葬儀をして見送りました。

私は長年、食生活改善推進員など地域活動に参加してきました。避難後、そうした活動はできませんが、なるべく社協の教室や講座に参加するなど、健康を維持し、子どもや孫たちになるべく迷惑をかけない元氣な余生を送ることを心掛けています。

ささだ たすく
笹田 丞 さん

(寺沢)



●避難先●
福島県いわき市



肌寒く曇りがちだったもののそれほど風も無い、暦の上では春3月とはいえ穏やかな冬の一日は、大地震と大津波によって叩き潰されたように大きく被災しました。被災当日、私は浪江消防署で勤務中（朝から翌朝までの1日勤務）でした。地震発生の直後、JR浪江駅近くで病院が倒壊したという通報があり現場に急行したところ、病院は無事でしたが近所の住宅が倒壊しており、住民の救助作業にあたりました。その後、請戸地区で津波被災者の捜索・救助にあたり、帰署したのは深夜になってからで、その時初めて原発が危険な状態になっていることを知りました。

私は結婚を機に寺松の実家から独立し、大熊町内のアパートで妻子とともに暮らしていました。長女は生後約2週間ということもあり、2人の身を案じましたが連絡が取れず、職務を離れることもできなかったため、後輩に自宅を見てきて欲しいと頼みました。そして、戻ってきた後輩から自宅のドアに挟んでいた妻のメモ書きを手渡されました。町外避難する旨を書いた妻の字に胸を撫で下ろしました。

その後、原発事故の悪化に伴い、双葉広域消防は富岡消防署川内出張所に拠点を移しました。相次ぐ原発の爆発、放射能の放出が続いている中、3月16日、東電からの火災通報を受け、私を含め21人が第一原発に出勤し発電所正門前に到着しましたが、国や東電からの指示は無く、放射線量の上昇が続いたた

め退避命令が出され、戻るという状況もありました。一方、妻子は福島県の妻の実家に避難していました。

震災発生の約1カ月後、ようやく休暇が取れ、福岡で妻子と再会しました。2人とも元気な姿を見せてくれましたが、長女の成長には目を見張りました。当初、数日で福島に戻る予定でしたが、私がインフルエンザにかかったため、「けがの功名」ではありませんが、9日間、親子で過ごすことができました。その後も休みの度に福岡との往復を続けましたが、平成24年4月、私が福島県消防防災航空隊に配属されたのを機に、再び、矢吹町で親子3人の生活を始め、それから間もなく長男が誕生しました。

私は消防防災航空隊での任期3年を全うし、この4月から富岡消防署栖葉分署に勤務しています。3年ほど双葉広域消防を離れている間、見合せていた新入職員の採用が再開されたり、団塊の世代の先輩方が退職するなど、顔ぶれはガラリと変わってしまいました。多少、戸惑いのようなものを感じることもありますが、消防活動を通して住民の皆さんの生命や財産を守ることに変わりはありません。双葉広域消防への復職に合わせて、私たち親子4人はいわき市内での生活となりました。母は千葉県流山市内で生活しています。避難開始当初、一人にいる母も心配でしたが、持ち前の明るさとマイペースで元気にしており、お互いに行き来しています。



きくち ゆか
菊地 由佳 さん

(山田)



●避難先●
埼玉県加須市

現在、埼玉学園大学人間学部人間文化学科ことばとコミュニケーションコースに4年生として在籍しており、就職活動の真つ最中です。私と同じように来年3月に卒業見込みの大学生は「バブル以来の売り手市場」などといわれ、就職に有利な状況になっているといわれます。就職活動全般でみれば学生の数ははるかに上回る求人があります。現実には学校のキャリアセンター（学生の就職支援部署）にはあふれるほどの就職情報が掲示されています。

大学に入学した頃はまだ就職氷河期で、数年後、まさかこうした状況になるとは想像できませんでした。しかし、希望する業種や勤務地などの条件を絞ると、実際のところ、それほど簡単に就職先が決まるものではありません。多くの学生が就職先を決めている中、気持ちの中で焦りはありますが、落ち着いてじっくり構えるしかないと考えています。

被災当時は浪江高校の2年生でした。震災発生当日は新入生の入試事務で学校が休みだったため、一人で自宅にいたところ大地震に遭いました。地震により自宅は大きな被害を受け半壊となりましたが、幸い無事に自宅内から脱出し、恐怖のあまり近所の家に逃げ込みました。当時、父は自宅近くにあるハウスで農作業、母は町内のパート先、祖母は夢工房、妹は富岡高校（通学先・当時1年生）、弟は双葉中学校（通学先・当時2年生）にと家族は出払っている状態で安否を心配しまし

たが、翌朝、父が妹を富岡から連れ帰ったため、全員無事に町から避難することができました。また、停電していなかったためテレビを通して地震や津波による被害や原発の非常事態について知ることができましたが、そのいずれもが信じられない情報ばかりでした。

町を離れてから、二本松市内の親戚宅やさいたまスーパーアリーナを経て旧騎西高校で生活しましたが、家族がみんなでないられることが救いだったと思います。また、平成23年4月、私は同じように避難していた同級生3人とともに鴻巣女子高校に編入学しました。当時、原発事故避難者の子どもたちが転校・編入先でいじめや差別など理不尽な扱いを受けるケースが数多く報道されていたため、編入学にあたって不安がありました。通学初日、担任に付き添われ教室に入ったところ、クラスメート全員が笑顔で迎えてくれ、卒業まで温かく接し続けてくれました。

大げさな言い方かもしれませんが、避難により私の人生は大きく変わりました。もし、浪江高校に在籍が続いていたならば、大学に進学することは無かったと思います。原発事故により故郷を失ったことは大きな悲しみですが、新しい土地での生活やそれによって受ける刺激や情報、大学進学、新しい仲間たちなど、新たに巡り合ったものも多く、これからも前向きに進んでいきたいと思っています。

福田塗装店

ふくだ みつまさ
福田 光正 さん

(寺松)

●避難先●
埼玉県加須市

避難後、私は塗装業を再開しました。塗装を行うという仕事の基本的な部分に変わりはありませんが、「所変われば、勝手も変わる」とでも言い表すのが適当かどうか分かりませんが、仕事のやり方、仕事の環境は大きく変わり、初めの頃は、その変化についていくことで疲れ果てるようなこともしばしばありました。

震災前、同じ町内の同業者・田中塗装店（福島市内で事業再開）で約8年間ほどお世話になった後に独立しました。それから約3年目の被災となりました。地震や津波の被害だけであれば、時間はかかっても何とかなることでしようが、原発事故で故郷を追われ、見知らぬ土地で一からやり直すことは、姿が見えない相手との闘いのような、何とも言えない不安なことでした。また震災前まで、長引く建設・建築不況の中、仕事があること、仕事をさせていただけなことだけでもありがたいと思うことも少なくなかっただけに、避難を境に仕事ができない、何もやることが無いという状態は非常に辛いものでした。

私たち一家は、避難指示により川俣町内の避難所に向かいましたが、原発の爆発が相次ぎ、当時小学3年生だった長男の安全を考え、埼玉県三郷市内に住む姉一家のもとに向かいました。約1週間ほどお世話になりましたが、テレビで双葉町が埼玉県内に移動した様子を見て、さいたまスーパースターを経て、平成23年9月まで旧騎西高校で生活しました。同校での

生活を始めて約1カ月ほど経過した頃、取材に来ていたマスコミの記者から、久喜市内のリフォーム会社で塗装業の請負を募集しているという情報を得たため連絡したところ、話が進み、同年5月から仕事を再開しました。

仕事を再開した直後、新たな土地で仕事をすることや再び仕事ができることなど、緊張や喜びで体より気持ち先行していましたが、故郷より一足早く訪れる夏、狭い現場や短い工期など、環境の違いが体に伝わるようになりました。現場が東京都内やその近隣の場合、交通渋滞を避けるため早朝に避難所を出て、帰りは渋滞に巻き込まれ夕方遅くなることも珍しくありません。避難所では生活に制約があるため、汗や埃まみれで帰ってきて自由な風呂に入ることでもできません。そのため、平成23年9月、避難所を出て加須市内のアパートに移りました。約半年ぶりに家族水入らずの生活となりました。その後も仕事は続けており、昨年には加須市内に自宅を建て、親子3人、この土地で生活していることと決めました。

事業を再開して約4年、関東地方という都会の環境では、工期は短く現場は狭いなど、作業環境への制約が多く、故郷に比べて仕事がいやすくはありません。夏には熱中症で倒れたこともあります。妻と子ども、そして自分の人生のためにも、多少の息抜きをしつつ、無理のない範囲で頑張っていると思います。

ぼくの夢・わたしの夢



会津若松市立謹教小学校 6年 ^{よこた}横田 ^{きよと}清仁 くん(渋川)

ぼくの夢は、ユーチューブで活動するユーチューバーになることです。
なぜになりたいのかというと、ある日ぼくがすごく落ち込んでいた時に、ヒカキンさんというユーチューバーの動画をみていたら自然と立ち直ることができたからです。ぼくもみんなを笑わせて、楽しくてうれしい気持ちにすることができたらいいなと思いました。

中にはユーチューバーなんかやっていないでちゃんとした職業に就けと言う人もいるかもしれませんが、でもぼくは、ユーチューバーになりたいと思います。

今月のベストスマイル

編集後記



勿来市民体育館で開催された第2回双葉町民作品展に会場した佐藤美枝子さん（写真左：郡山）と郡文枝さん（写真右：郡山）の笑顔です

早いもので1年の最後の締めくくりの月、12月を迎えました。12月は師走ともいいますが、走りぬけるよりも一年を振り返りながら、新しい年に向かって一歩ずつ踏みしめて歩んでいきたいですね。

今月の表紙は、ふるさとの祭り2015 in 南相馬で新山神楽保存会の皆さんが避難先から集まり、演じた神楽の舞です。息の合った力強い神楽の舞に身の引き締まる思いがしました。

町民の皆さんの絆を強めるうえで貴重な双葉町の伝統芸能が、これから先も継承されていくことを願います。

12月には住民意向調査が実施されます。町民の皆さんの意見や希望をお聞きし、今後の双葉町の方向性を見極め、ニーズに対応した施策を講ずるための基礎資料となる重要な調査ですので、期限内に忘れずに提出されますようお願いいたします。

北風が吹く寒い季節となりましたので、お体にはくれぐれも気をつけて新しい年を迎えられますように...

連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4
☎ 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212、0246-84-5213
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20番2号
☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○埼玉支所 〒347-0105
埼玉県加須市騎西36番地1 加須市騎西総合支所1階
☎ 0480-53-7780
FAX 0480-53-7266
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>
携帯サイト <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/>

○双葉町公式フェイスブックページ [つながよう つながろう ふたばのわ](http://facebook.com/fukushima.futaba)
<http://facebook.com/fukushima.futaba>

